

事務事業チェックシート

事務事業No 579 事業名 各種競技団体との連携事業（スポーツ交流大会、ジュニアスポーツ教室など）

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	4	スポーツの振興
取組方針	1	生涯スポーツの振興

事業種別	継続		
事業期間	～ 永年		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市スポーツ振興計画		
担当課・担当課長・Tel	スポーツ振興課	小川 直寛	435-1364
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	スポーツ振興費		
	大事業	スポーツ振興事業		
中事業	各種競技団体との連携事業			

1 事業内容

事業目的	「誰・何」をどういう状態にするための事業か 和歌山市体育協会などの様々な競技団体と連携を密にすることで、市民がスポーツに接する機会を与え、スポーツ人口の増加を図ることを目的とします。		全体事業概要 スポーツの振興及びスポーツ人口の増加を目指し、和歌山市体育協会などの様々な競技団体が実施するスポーツ教室、交流大会、卓球大会等に補助金を支出しています。 また、和歌山市を拠点に活動しているプロスポーツチーム等と連携しジュニアスポーツ教室を開催するとともに、世界大会等に出場する海外ナショナルチームの事前合宿等を誘致し、合宿費用の一部を負担します。			
	事業内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催 世界陸上北京大会出場のオーストラリア陸上ナショナルチームの事前合宿受入れ		生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアサッカー教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアスポーツ教室の実施 市町村対抗ジュニア駅伝競走大会への派遣 障害者卓球大会の開催 国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会開催に対する補助金の支出 カナダ競泳ナショナルチーム合宿受入れ	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアスポーツ教室の実施 障害者卓球大会の開催 場のカナダ競泳ナショナルチームの事前合宿受入れ	生涯スポーツ交流大会の開催 ジュニアスポーツ教室の実施 東京オリンピック・パラリンピック出場のカナダ水泳ナショナルチーム、及びオーストラリア陸上ナショナルチームの受入れ 障害者卓球大会の開催	

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	2,898	4,354	2,805	2,804	5,961	6,134	3,189		3,189	
伸び率 (%)	-	-	▲3.2%	▲35.6%	112.5%	118.8%	▲46.5%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	2,993	3,454	3,454	3,869	3,869	3,849	3,806	3,806	
	正規職員以外									
	小計	2,993	3,454	3,454	3,869	3,869	3,849	3,806	3,806	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他										
一般財源（税等）	2,898	4,354	2,805	2,804	5,961	6,134	3,189		3,189	
所要人数（人）	正規職員	0.40	0.45	0.45	0.49	0.49	0.48	0.48	0.48	
	正規職員以外									
主な予算内訳	スポーツキャンプサポート補助金 1,500千円、ジュニアスポーツ教室開催委託料 935千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 教室・各種大会実施件数	件	目標値	19	19	20	20	
		実績値	19	18	19		
		達成度 (%)	100.0%	94.7%	95.0%		
成果指標 教室・大会参加者数	人	目標値	3,200	3,200	3,200	3,200	
		実績値	1,670	2,411	2,293		
		達成度 (%)	52.2%	75.3%	71.7%		

4 事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)		達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>様々な競技団体と連携を図り、市民のための生涯スポーツ交流大会や、障害者と健常者が共に参加して行う障害者卓球大会などを開催するとともに、プロスポーツチーム等と連携したスポーツ教室の開催や海外ナショナルチームの事前合宿を誘致するなど、市民がスポーツに接する機会を与え、人と人との繋がりを大切にすることや、トップアスリートを間近でみることにより、スポーツ振興や推進に寄与しています。</p>
見直し・改善内容	<p>今後も、競技団体との連携強化を図り、各種スポーツ大会を実施していく中で、コスト縮減に向けて検討してまいります。</p>